静岡新聞で学ぼう

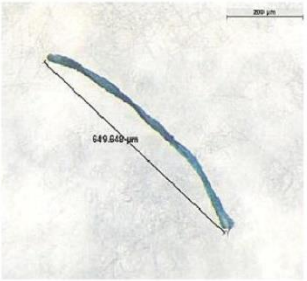
Newspaper in Education

静岡新聞

新種の深海生物「プラスティクス」

体内からプラ粒子

発見者、学名で行動促す



▲マリアナ海溝で見つかった新種のオキソコエビ「エウリセネス・プラスティクス」の幼生（左下）と成体（英ニューカッスル大提供）

新種のオキソコエビの体内から見つかった繊維状のマイクロプラスチック（英ニューカッスル大提供）

水深6000メートル超のマリアナ海溝

太平洋のマリアナ海溝の水深6千メートルを超える深海で見つかった新種の甲殻類の体内に、プラスチックの微粒子「マイクロプラスチック」が含まれていたと英ニューカッスル大の研究グループが2日までに明らかにした。「海のマイクロプラスチック汚染の広がりを示す調査結果だ」と指摘している。

オキソコエビと呼ばれる深海生物の一種で、半球形の体とひげ、とがった尻尾などが特徴。グループは、プラスチックにちなんだ「エウリセネス・プラスティクス」との学名を付け「汚染をなくすために早急な行動が必要なことを訴えようと考えた」と説明した。

グループは、2014年11月、米国のシュミット海洋研究所の調査船を使って、太平洋のグアム島に近いマリアナ海溝の6010～6949メートルの深海で多数のオキソコエビの仲間を捕獲した。この中から遺伝子や形態の分析から新種とみられるオキソコエビの成体3匹、幼生8匹を発見した。

1匹の幼生の消化管から、長さ約650マイクロメートル（マイクロは100万分の1）の繊維状のマイクロプラスチックが見つかった。ペットボトルや合成繊維などに使われるポリエチレンテレフタレート樹脂とみられるという。

マイクロプラスチックは、海に出たプラスチックごみが太陽光の紫外線や波によって壊れるなどしてできる。広範囲の海洋汚染が問題となり、生態系への悪影響や人の健康への懸念も指摘されている。

2020年4月2日夕刊

① マイクロプラスチック（プラスチックの微粒子）の問題点が書かれている部分を□で囲みなさい。

② 新種の甲殻類（こうかくるい）の学名を「エウリセネス・プラスティクス」と付けた理由を2つにまとめ、それぞれ30字以内で書きなさい。

1

2

年　　組　　名前

作問者：静岡新聞NIEコーディネーター　矢沢和宏

（小学校高学年～高校／理科・総合）